

美術科 授業の様子 授業者：田村 淳樹

美術科では第3学年「身近な場所を Re デザイン」の題材で授業を公開しました。題材のねらいは「デザインの学習を通して、主題を生み出したり、構想したりする力を高めること」です。本時は、「自分の願い」「友の願い」「造形的な要素」を相互に関連させながら生み出した主題を基に構想をしたり、構想したものを表現したりすることを目指しました。



【前時まで】この単位では、デザインをするために構想シートを用いました。生徒は、構想シートを活用しながら主題を生み出し、自らが改善したい場所を校内から見付け、改善するためのデザインを前時までに構想してきました。

【導入】生徒は、前時までに構想が固まってきており、前時の終末では、次の活動の見通しをもっていました。そのため、本時の導入場面では、単元の学習問題を全体で確認した後に、生徒の活動がスタートしました。

【展開】生徒は、これまでの自分の構想を基に、個人で制作に没頭したり、友とかかわりながら改善点を見だし構想を修正したりしました。教師は、生徒一人一人への個別支援に徹し、素材の提供や表現方法の示範を行いました。造形的な要素への意識がなかなかもてない生徒には「これは何色にしたい。」や「どんな形になっていくの。」など、造形的な要素への意識に立ち返るような声掛けを行いました。M生は、傘立てを改善したいと願って構想を続けてきていたため、教師は、「実際に昇降口の傘立てを見てきたらどうか。」と声掛けをしました。その後、M生は、実際に傘を使って、昇降口で機能性を確かめました（写真）。さらに、M生は、美術室で見た目の美しさと場所との調和を深く考えながら、構想を進め、ペットボトルの外に設置場所の色味に合った画用紙を巻くという表現をすることができました（写真）。



【終末】振り返りにおいて、M 生は、「ペットボトルの外に紙を巻くことによって、より傘を入れやすくなった。その紙に何かイラストのようなものを入れることで、ユーモアももたせることができると思う。」と記述しました。これは、M 生の主題「見た目と使いやすさを両立し、多くの友が使いたくなる傘立て」を実現しようと、主題と構想を結び付けながら、考えが深まった姿であると考えられます。

【研究会のまとめ】

生徒一人一人が、自分の構想をもち、作品作りに没頭している姿が多く、それは、これまでの題材展開の中で構想シートを用いたことによって、主題と構想が明確になっていたからではないかとのご意見をいただきました。また、授業形態について、自由に友と関われるようにすることで、新たな発想や構想につながっていることや、素材や環境の準備によって、生徒が主体的に学習に取り組むことができていたとの肯定的なご意見を多くいただきました。これまでの授業を振り返ると、生徒が学習の見通しをもてるようにしようと考えたあまり、教師の指示が多かったように思います。題材の中の手立てを工夫することで、生徒は主体的に学習に取り組むことが分かってきたため、今後も手立ての講じ方の検討を重ねていきたいです。